



1 平成20年中の高齢者の交通事故死者数を状態別にみた場合、最も多いのは次のうちどれ？



①自動車乗車中



②原付乗車中



③自転車乗用中



④歩行中



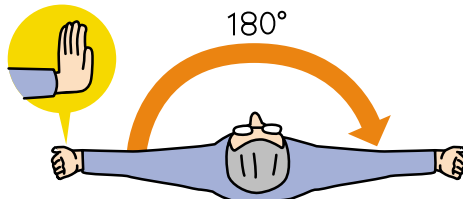
2 自転車の運転者が児童、幼児、〇歳以上の者、身体障がい者である時、歩道を通行することができますが、〇の中に入る数字は次のうちどれ？

- ① 60 ② 65 ③ 70 ④ 75



3 高齢者の水平視野（両眼）は一般的に何度くらいと言われているでしょう？

- ① 100度 ② 120度 ③ 140度 ④ 160度



※まっすぐ前を向いて、両手の手先を上に向けて
たまま左右に広げ、手先が見えなくなったと
ころで自分の水平視野がわかります。

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL: 03 (5412) 1736



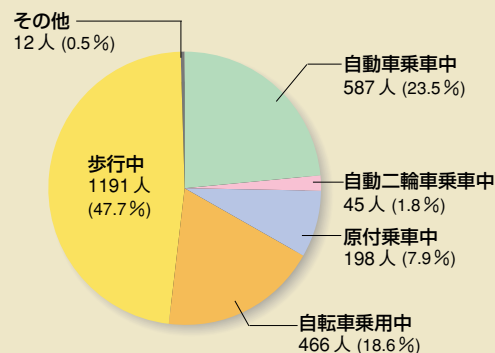
Q 1

解答 ④ 歩行中

<解説>

平成20年中の高齢者の交通事故死者数を状態別にみると、歩行中が半数近く（構成率47.7%）を占め、次いで自動車乗車中（23.5%）、自転車乗車中（18.6%）の順に多い。（警察庁資料）

●高齢者の状態別死者数（平成20年中）



Q 2

解答 ③ 70

<解説>

道路交通法

普通自転車の歩道通行（第63条の4第1項 道路交通法施行令26条）

普通自転車は、次の場合には、歩道を通行することができる。

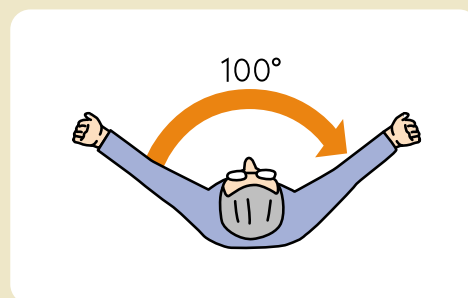
- ①道路標識や道路標示によって普通自転車が歩道を通行できるとされているとき。
- ②普通自転車の運転者が児童、幼児、70歳以上の者または車道通行に支障がある身体障害者であるとき。
- ③車道または交通の状況に照らして、通行の安全を確保するために、普通自転車が歩道を通行することがやむを得ないと認められるとき。

Q 3

解答 ① 100度

<解説>

成人の両目の水平視野は180度ですが、年齢を重ねるに従って狭くなっていきます。高齢者の水平視野は、両目で約100度です。このため、運転中の見落としが多くなる傾向があります。頭や首を見るように動かすことで、補いましょう。



【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL: 03 (5412) 1736